資料１

第１回　神戸(表六甲河川)地域総合治水推進協議会

議事概要

日　時：平成 26 年 10 月 16 日（木）　14:00～16:00
場　所：兵庫県学校厚生会館　7F 大会議室
参加者：(構成員)【学識経験者】沖村（会長）
【県、神戸市】太田、畑
【県民】渡辺、大森、後藤、中井、岸本、佐々木、岡松　（敬称略）
（事務局）7 名、(随行者）14 名、(記者）0 名、(傍聴者）0 名　　計 31 名
議　事：(１）神戸(表六甲河川)地域総合治水推進協議会の設置について
（２）総合治水条例について
（３）策定スケジュールについて
（４）神戸(表六甲河川)地域総合治水推進計画について
（５）第１回ワーキングの主な意見と対応について
（６）防災福祉コミュニティへのアンケート結果について
（７）今後の予定について

（１）協議会の設置について
（２）総合治水条例について
（３）策定スケジュールについて

佐々木構成員）自宅で簡単に雨水をためることは良いことである。県ではそういった取り組みを行って行くのか。
事務局）各戸貯留を推進していきたい。
中井構成員）新湊川があふれると東側は流れていくが、西側の菊水町あたりは貯まる。新湊川はどれくらいの雨で注意しないといけないか。雨量を教えて欲しい。
事務局）この後の議事の中で説明する。

（４）神戸(表六甲河川)地域総合治水推進計画について
（５）第１回ワーキングの主な意見と対応について
（６）防災福祉コミュニティへのアンケート結果について

渡辺構成員）住吉川は台風 18 号では濁流が流れていたが、台風 19 号では濁流ではなかった。何があったのかと心配した。砂防えん堤、治山ダムの整備を続けて欲しい。防災福祉コミュニティは地震を中心に活動してきたが、水害についても考えていくべき。いかに生活を支えていくか、地域での助け合いが必要である。
沖村会長）台風 18 号では 1 年から数年の間に貯まった不安定土砂が流れたもの、台風 19 号ではそれらが洗われたため流出しなかったものと考えられる。小学 4 年生の教育が一生を左右すると言われている。教育委員会と連携して効果的に防災教育を行って行く必要がある。県は山から河口まで一貫した対策をとっている。
佐々木構成員）砂防えん堤は堆積土砂を取らないと機能しないと思っていたが、認識が変わった。もっと詳しいことを聞きたい。
事務局）パンフレットを作って広報しているが、広く周知できていない。積極的に PR して行きたい。

沖村会長）土石流は水と土が分離すると土が止まるので、砂防えん堤に貯まった土の中に水がしみこみ土が止まる。砂防えん堤は現況勾配の 1/2 までは堆砂させられる。土砂がたまることで、山腹の崩壊を抑える効果がある。

岸本構成員）新湊川が何回もあふれている。上流の山が崩れると橋桁に流木が引っかかってあふれる。山崩れがしないように対策して欲しい。

沖村会長）時間雨量 100 ミリが 2 時間続くとまずい。通常は浸透するが、雨が強すぎて地表流になると土が削られて山崩れにつながる。

大森構成員）都賀川は下水道が整備され、1m から 2m の暗渠が集まって急な増水となった。学校教育や婦人会、老人会などで PR していく必要がある。コミュニティは高齢化しており、若い人がいない。

後藤構成員）台風 18 号では床下まで水が来た。台風 19 号も覚悟していた。神戸では 100 ミリの雨は降っていないが、いつ来るかわからないので訓練をしていきたい。老人の昼食会で気を失った人が出たが、救急処置されて助かった。訓練のおかげである。

沖村会長）訓練していても本番では全てできない。訓練をしていなければ何もできない。訓練を続けて欲しい。

中井構成員）東山にある防災ステーションのモニターは本当に映るのか。

畑構成員）水防センターの建物の中に水位と雨量のモニターがある。

中井構成員）その話は聞いたことがなく、地元の人も知らないので、防災訓練時に来て説明して欲しい。

畑構成員）新湊川があふれると、右岸と左岸で氾濫形態が違うと先ほどおっしゃってたが、確かに中部建設事務所のところが低い。ポンプで排水を行うが、新湊川が改修されてからあまり動かなくなった。

中井構成員）大同町の上流の水を排水している筈である。今でも動いている。確認して欲しい。

岡松構成員）福田川の山陽電鉄に流木が詰まってあふれたことがある。河口の堆積がひどかったが、今は大丈夫である。上流部が開発されると危ない。

沖村会長）昭和 42 年の水害では、川の東西方向に向かって浸水が広がっている。川があふれたら道路を伝って水が流れる。その時どうするかを考えておいて欲しい。想像をたくましくする必要がある。

畑構成員）下水道は大きな流域をもっていないので、市街地部分の能力しか持っていない。川から水があふれても、能力不足や排水溝の目詰まりなどで排水できない。

沖村会長）あふれた水がどう流れるかを地域で想像して欲しい。神戸は阪神淡路大震災を経験したので防災意識が高い。今後も市民の防災力を高めていって欲しい。

佐々木構成員）震災の経験も風化しつつある。昼間は人がいないので、小中学生を対象とした訓練が必要である。学校の協力が必要である。最近は、若い人が防災の中心になりつつある。県も、市民の積極的な地域への参加を進めていってほしい。

沖村会長）神戸は大学が充実していて、学生ボランティアが多い地域である。学校との連携が必要である。

（７）今後の予定について

司会）第 2 回ワーキングは 11 月下旬、第 2 回協議会は来年の 1 月中旬を予定している。

以上